

POLIS 国際会議について

国際調整室長 広瀬 順一

REPORT

2018年11月22、23日に英国マンチェスター市オールド・トラットフォード・スタジアムにて開催されたPOLIS会議に出席する機会があり概要を紹介する。

会議のテーマは「サステイナブルな都市・地域のための輸送イノベーション議論」である。<https://www.polisnetwork.eu/events2/2018Conference> に関連情報がある。



オールド・トラットフォード・スタジアム外観

本会議を主催するPOLISは、「より良い輸送のための都市・地域を目指し活動する、革新的な輸送ソリューションを提供する都市・地域のための欧州ネットワーク機関」であり、マンチェスター市が2018年、POLIS代表を務めていた。

1 会議の概要

健康と環境、輸送効率化、アクセス、道路安全、ガバナンスの5分野に渡り最新動向の報告と今後の課題について議論がされた。

2 開会セッションの概要



Andy Burnham、Mayor of Greater Manchester による開会挨拶

開会プレナリーセッションでは欧州委員会（EC）の Matthew Baldwin、Deputy Director General、DG MOVE、European Commission が環境改善、道路安全対策につきEU目標を説明した。また、ISA（インテリジェント・スピード・アシスタンス＝速度超過した車両をインフラ側からエンジン制御を行い強制的に速度低下をさせる支援機能であり適合車両がすでに販売されている）の即時実施を呼びかける活動にPOLISが署名するセレモニーも公開された。また、キーノートスピーチでは、「都市内を通過し環境を悪化させる高速道路上に人工地盤を構築し地域環境を改善し公園などとする計画」をアントワープ・プロジェクトとしてアントワープ大学教授が紹介した。

3 道路有効活用セッションの概要

- ・ユトレヒトでは、道路に埋め込むループコイルだけでなくレーダーや赤外線カメラで検出し渋滞状況を予測しドライバーに予想情報として提供し平行する道路への迂回を防止し渋滞悪化を防止することに成功している例を紹介した。ただし、予測が当たらないこともあるとのこと。
- ・同じくユトレヒトでの例としてループコイルだけでなく4G（第四世代携帯電話網）を利用しV2I（路車間）信号制御を行い車列団、公共交通、自転車団への優先信号提供を実施し渋滞解消にも成功しているとのこと。今後は空バスを検出し優先信号を適用しないことにしたいとのこと。
- ・英国の輸送研究機関からは、都市の役割変化に合わせ道路を「人優先」に作り変えるデザインツール開発プロジェクトが紹介された。



4 車両排気ガスの測定と環境改善のセッション概要

- ・Euro6d クラス（ヨーロッパ連合（EU）が2014年に施行した第1段階（Euro6b）の自動車の新たな排出ガス規制の次の第二段階）を2017年9月より創設したことによりその車両販売が増加しNOXが改善した例を紹介した。
- ・バルセロナでは実測値を把握したのでLow emissionゾーンを2020年に設ける予定であるとのこと。
- ・ドイツのバーデンでは、Euro4（2005年～）、Euro5（2009年～）クラスの古い車をEuroO6の新車に買い替えさせて環境改善した例を紹介した。
- ・ロンドンのゼロ・エミッション活動の紹介があり2050年までに実現する方針であり、まず、Tチャージ（課金）を2017年10月23日より実施した（混雑税に10ポンド加える形）、グレーターロンドンにロウ・エミッション・ゾーンを順次拡大していく計画であり、世界40都市でも同様の活動があると発言していた。



世界40都市のゼロエミッション活動の紹介

- ・FIA 財団（Federation Internationale de l'Automobile）からはエミッションの実測値がEuroクラスを遵守していない状況例を紹介して欠陥車だらけの状況であると紹介したため議論が紛糾する一幕もあった。

5 スマートシティでの新モビリティのセッション概要

- ・オランダ Noord-Brabant / BrabantStad からは、中小都市にCCAM（Cooperative Connected Automated Mobility）やMaaSを導入する場合にユーザー中心の設

計をすることが重要であるとの提言があった。

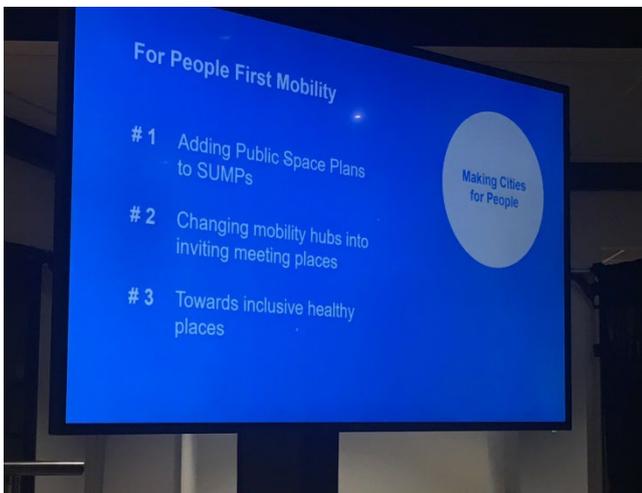
- ・トムトム (Tom Tom) からは官民データ統合による交通管理情報の実現の提言があった。
- ・オランダの Gelderland からは、ドイツとオランダ国境超えの自動運転の課題について検討内容の紹介があった。(国毎に異なる制度：ドイツは頑固で慎重、オランダはセッカチであるとのこと)。

6 自動運転関連のセッションの概要

- ・ヨーテボリのドライブ・スウェーデンの取り組みの紹介があった。
- ・フランスでの Keolis 社と Navya 社の共同活動の紹介があった。
- ・オランダ Emmen 市での自動運転社会に向けた取り組みの紹介があった。(5G (第五世代携帯電話網) 活用の街角センサー網の設置を行い、大気、騒音、人を含んだモビリティのセンサーとする提案)

7 クロージング・セッションの概要

- ・人のための都市とする姿勢での取り組みの重要性を共有した。



- ・技術について検討するのではなく、それらを人のために使うツールとして活用する都市計画の重要性を共有した。

2019 年は 11 月末にブルッセルにて開催される予定である。